

# マリーゴールドの育て方

令和3年7月作成

## — 種から育ててみましょう！ —

種をまいて花を咲かせる・・・少し難しそうに思いますが、基本をおさえれば簡単にできます。

### 🌱 種まき 🌱



### ○種まきの仕方

#### 1 セルトレイ土入れ

- ①種まき培養土に水を入れて、土をよくかき混ぜます（コンテナ端の土も十分混ぜるようにします）。湿り具合が、土を軽く握った時にふんわりした塊になるくらいがまでかき混ぜます。湿った種まき培養土をセルトレイに入れます。土が入ったセルトレイを両手で持ち上げ、床などに軽く落とし、詰め込んだ土の隙間をなくします。土が沈んだら土を入れて、手や板などで、土の表面をならします。



## 2 播種

①育苗箱に土詰めしたセルトレイを置きます。その後、セルトレイの土に1個ずつ深さ5mm程度の丸い穴をあけます。



②ピンセット等で種をつまみ、穴に1粒ずつ丁寧に種を播きます。播き終わったら種が隠れる程度に覆土します。



種(マリーゴールド)



ピンセット等を使用して種をつまみます



ピンセット等を使用して種をつまみ、種を播きます



播いた種



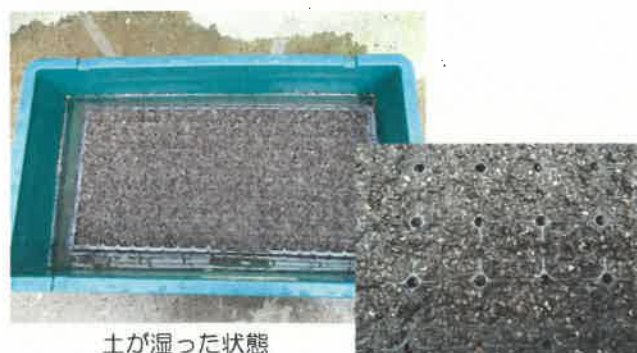
覆土します

## 3 水やり

①トレイに水を張り、セルトレイの下から水を吸わせる底面給水で水やりします。土の色が黒く変わるまで下からしっかり水を吸わせます。土が湿ったらすぐに水から上げます。



土が乾いた状態



土が湿った状態

#### 4 種まき後の管理

- ①ラベルに種まき日、花の名前、花の色を記入してセルトレイに立て、発芽するまでは風通しの良いなるべく涼しいところに置きます。土の表面がうす茶色になったら土が乾いたサインです。朝、底面給水でやさしく水やりをしましょう（水のつけっ放しは絶対にしないようにします）。



※発芽するまでは絶対に乾かさな  
いようにします。

- ②苗が出そろったら、根の張りを良くするため、日当たりと風通しの良い場所に置きます。



※日当たりが悪いところだと苗が徒長するので、  
日当たりが良いところに置きます。

#### 🌱 ポット上げ 🌱

根が十分回ったら苗（目安として種まきしてから約3~4週間）をポットに植え替えます。これをポット上げといいます。いつまでも狭いセルトレイの中におくと生育不良をおこして良い苗になりません。ポット上げをすると、小さい苗がぐんぐん大きくなります。段階的に根の部屋を広くすると、丈夫な苗になります！

#### 主な準備物

ポリポット(径9cm)



ポット上げ(育苗)用の土



苗



育苗用培土：肥料が入っています

# ○ポット上げの仕方

## 1 ポット土入れ

①セルトレイ土入れと同じように土に水を入れて、湿り具合が、土を軽く握った時にふんわりした塊になるくらいまで土をよくかき混ぜます。手で土を軽く握って、ポットの表面まで土を入れます。ポットを上から軽く落として土が沈んだときに土の量がポットの約8分目になるようにします。



ポットに土を入れます



表面まで土を入れます



ポットを軽く落とします



土の量は  
約8分目まで

## 2 ポット穴あけ

①ポットの中央に指で穴をあけます。



指で穴をあけます



穴あけ完了

## 3 苗植え付け

①苗を傷めないようにフォーク等でセルトレイの土を挿し、土を持ち上げるような感じでセルトレイから苗を取り出します（持ち上げる際、土を崩さないようにします）。苗をポットの穴にやさしく入れ、土を寄せたら植え付け完了です。植え付けはポットの土の表面と苗の土の表面が同じくらいにします。



フォークで、苗取出し



穴に苗を入れて土寄せ



植え付け深さ

## 4 水やり

①ポットから土がこぼれたり、苗が倒れないようにするために弱い水圧のシャワーで株の周りに数回に分けて静かに水を注ぐなどしてやさしく水やりをします。ポリポットの下穴から水が流れ出るくらいまでたっぷりと水を与えます。植え付け後、2～3日は直射日光や風があたらない場所に置きます。その後、日当たりのよい場所に移します。土の表面が乾いたら、朝、やさしくたっぷり水やりをしましょう。

### 【注意点】

- ・特にポットの土に根がつくまでは絶対に乾かさないようにします。

## 🌱 定植とその後の管理 🌱

ポット上げ後、根が十分まわったら(目安として約3~4週間)プランターや花壇に苗を定植します。

### ○定植

#### 1 苗植え付け

①根が十分にまわっている充実した苗を植えます。植え付けはプランターまたは花壇の土の表面と苗の土の表面が同じくらいにします。



左：○充実した苗  
右：×充実していない苗



穴に苗を入れて土寄せ



植え付け完了

### ○水やり

①定植後、すぐにたっぷりと水やりをします。ポットから土がこぼれたり、苗が倒れないようにするために弱い水圧のシャワーで株の周りに数回に分け静かに水を注ぐなどしてやさしく水やりをします。プランターの場合は底から水が流れるくらいやさしくたっぷりと水やりをします。花壇の場合は株の周りに水がしみ込むように静かにたっぷりと与えます。

その後、土の表面が乾いたら、朝、やさしくたっぷり水やりをしましょう。

#### 【注意点】

- ・特にプランターまたは花壇の土に根がつくまでは絶対に乾かさないようにします。
- ・汲み置きの水やホースに残っている水は熱くなっていることがあるので、水が冷たいことを確認してください。

### ○花から摘み

枯れた花を放置しておくと、種が出来て株の栄養がとられてしまいます。また、病気の原因となりますので、枯れた花は花茎ごと摘んでください。



花茎

摘む位置 (赤点線)

### ○追肥

生育の様子をみながら、窒素分が少なく、リン酸分の多い肥料(緩効性肥料など)をラベルに記載されている説明に従って、使用してください。



追肥イメージ  
(緩効性肥料)

## ○切り戻し

満開後に花が少なくなってきたり、形が乱れ始めら株全体を切る（目安として草丈の約半分の高さで切る）切り戻しを行います。形が整理され、再びきれいに花が咲きます。

葉の根元の新芽（わき芽）が出てくる場所の少し上の位置で切ってください。

切り戻し後、窒素分が少なく、リン酸分の多い肥料（緩効性肥料など）をラベルに記載されている説明に従って、使用してください。



## ○防除

高温乾燥が続くと葉にハダニが発生しやすくなります。ハダニが発生すると葉は白いカスリ状になり、株は弱ってしまいます。発生したら早めに農薬（殺ダニ剤）を葉の裏を含む全体に散布します。

※農薬を使用する際にはラベルの表示記載事項（使用上の注意点等）を守ってください。



※この資料の育成方法は一例です。花の生長は管理や環境条件によって変わりますので生育環境にあわせてポット上げ等の栽培をしてください。